



橋 戸

令和4年2月28日
学校だより 第11号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木 俊哉

“節目”の季節に考えてみたこと…

校長 青木 俊哉

卒業式が近づくこの時期、私には忘れられない光景があります。

2年前の2月28日。その前夜突然発表された臨時休業、下校前ワークスペースに集めた当時の6年児童の顔。誰に指示されるでもなく静まり、集中して私の話に耳を傾ける子供たちの表情。切なさと同時に、できることは何としても…の思いを強くしたこと、今も鮮明に思い出します。状況を説明し、約3週間休みとするが、卒業式は必ず行うことを約束しました。来賓や地域の方の出席はできないと話すと、「えっ!?!」と声を上げ表情を曇らす子がいました。保護者や5年生の出席は何とか実現させると伝え、安堵の表情を見せ、少し和らいだようにも感じました。あの日から2年…。

昨年度も、この時期の休業こそなかったものの、移動教室は中止となり、他の学校行事も中止か規模縮小を余儀なくされ、残念な思いをさせてしまった中、卒業式は感染対策を講じての実施、感染前とは異なるものとなりました。

さて、今年も年度末を迎え、卒業、修了、進学、進級といった節目の時期が近づいています。すでに、「6年生を送る会」や「卒業を祝う会」を終え、高学年は卒業式に向けての練習に入ります。卒業式会場での当日の歌唱は叶わず、式次第にも時間短縮が求められており、練習計画も回数や内容を見直し、縮小しての準備・実施となりますが、中学へと出発する子供たちのため、思い出に残るよう、学校としてできるだけのことを…と考え、進めてまいります。

先々週実施の「6年生を送る会」では、感染対策上複数の学年が場を共有することを避け、動画撮影と撮影場面のMeet視聴(6年生のみ)を併用しての実施としました。Meetの画面越しでしたが、在校生の思いは6年生に確かに届いたように聞いています。また、6年生の拍手も音声や画面を通して伝わり、喜ぶ在校生の姿がありました。

ウイルスの感染は、負の側面ばかりが語られがちですが、一つ良かったことを挙げるなら“ICT機器の普及、情報教育を支える基盤(環境)の整備”が進んだことが考えられます。今回の送る会のようなこと、今では当たり前のように実施していますが、2年前の本校では考えられなかったことです。ZoomやMeetでのやり取りだけでなく、タブレット型端末の配置により、一人一人がツールとして端末を活用し、先生と子供たち、クラス全体で共有しながら学習が進み、活用力を高め、日常化が図られる…“個別最適化された学びの実現”が近づきつつあるのは確かです。

感染自体は、私たち一人一人の力ではどうすることもできません。が、感染を広げないように努めることはできます。感染のマイナスを嘆くこともできますが、限られたプラスを見出し、よりよい世の中や生き方につなげることもできるはず。楽観的と笑われるかもしれませんが、子供の目の前に立つ者として、子供たちの成長に深く関わり、支える立場の学校として、こんな見方も一方に置きながら、今年度最後のひと月、最後の取組に臨みたいと思います。

今年度も、保護者、地域の皆様のご理解のもと、たくさんのご支援、ご協力を賜り、無事に教育活動を進めることができました。心より感謝と御礼を申し上げます。

今年の卒業式…もう目の前です。